

インフルエンザワクチンについて

インフルエンザワクチンは任意接種であり、本人あるいは保護者が希望する場合にのみ接種を行います。接種を受ける前にこの案内をお読みいただき、理解した上で接種を受けてください。

インフルエンザはインフルエンザウイルスによる感染症です。インフルエンザにかかっている方の咳やくしゃみからの飛沫によりウイルス感染が拡大します。インフルエンザは通常の感冒と異なり、肺炎や脳症などの重篤な合併症を引き起こすことがあり、死亡する場合があります。インフルエンザワクチンはインフルエンザの発症予防よりも、その重篤な合併症を予防する目的で接種されております。発症予防効果は約50%と言われております。

2025年度のインフルエンザワクチン株は、A型H1N1（ビクトリア）・A型H3N2（パース）・B型ビクトリア系統（オーストリア）3価の混合型です。

ワクチン接種後抗体が上昇するまで約2週間かかり、ワクチンによる免疫効果は約3～5ヶ月持続するといわれております。

接種回数は13歳未満の場合は2～4週間隔（3～4週間が望ましい）で通常2回、13歳以上の場合は1回です。1才未満の乳児の場合生後6ヶ月以上を接種対象児としていますが、乳児は家族からの感染予防が最も重要です。

インフルエンザワクチンは製造過程において鶏卵を必要とします。よって卵アレルギーを持つ方は接種後まれにアレルギー反応が生じる場合がありますので、接種前に医師に相談してください。

副反応としては、接種当日に接種部位の発赤・腫脹・疼痛がありますが、通常2～3日で消失します。また接種後2日以内に発熱や倦怠感がみられることもあります。ごくまれにアナフィラキシー様症状、急性散在性脳脊髄炎（ADEM）、ギラン・バレー症候群などの報告があります。予防接種の副反応により治療が必要になった場合や生活に支障をきたす障害などの健康被害が生じた場合は、医薬品医療機器総合機構法による医薬品副作用被害救済制度を受けることができます。

接種当日は激しい運動は控えてください。入浴は差し支えありません。